

基礎看護学

1 構成員

	平成16年3月31日現在
教授	4人
助教授	1人
講師（うち病院籍）	0人（0人）
助手（うち病院籍）	2人（0人）
医員	0人
研修医	0人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	8人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技官（教務職員を含む）	1人
その他（技術補佐員等）	1人
合 計	17人

2 教官の異動状況

松島 肇（教授）	（H8. 4. 1～現職）
石津みゑ子（教授）	（H11. 4. 1～現職）
宮本 愛（教授）	（H13. 4. 1～現職）
渡邊 泰秀（教授）	（H14. 6. 1～現職）
小林 貴子（助教授）	（H11. 4. 1～現職）
木山 幹恵（助手）	（H14. 4. 1～現職）
西森 咲江（助手）	（H15. 4. 1～現職）
平井栄利子（教務職員）	（H12. 4. 16～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成15年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	2編（2編）
そのインパクトファクターの合計	0
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	3編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	9編（9編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	2編（2編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編（0編）

そのインパクトファクターの合計	0
-----------------	---

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 小林貴子, 小長谷百絵, 小平京子, 井上智恵, 松田悦子, 伊藤ひろみ, 土屋陽子 (2003) 「看護実践モデル」における「とっかかり／手がかり言動とその直感的解釈」看護研究 36(3) : 13-23.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 坂田五月, 石津みえ子 (2003) 温罨法の違いが生体反応と温度感覚に及ぼす影響 — 湯たんぽと電気毛布との比較から — 日本生理人類学会誌 8(12) : 7-16.

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 松島 肇 (2003) 医療廃棄物処理の現状と対策, 第31回流動化分科会ガス化溶融炉事例シンポジウム : 55-62.
2. 松島 肇 (2003) 細胞毒性物質（プリオン, 抗悪性腫瘍剤等）の危険性と対応, 第49回東海公衆衛生学会学術大会 : 26-27.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 澤木宏子, 井上充代, 安藤しのぶ, 小林貴子 (2003) 間歇的経口食道栄養法（O-E法）を導入したことで抑制を外すことが出来た一事例, 高齢者ケア 7(14) : 82-86.

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 松島 肇, 平井栄利子 (2003) 日本医師会感染性廃棄物安全処理推進者養成講座 診療所などにおける感染性廃棄物処理管理マニュアル, 日本医師会総合政策研究機構 : 1-63.
2. 松島 肇 (2003) 感染性廃棄物管理総論, 第1回日本医師会感染性廃棄物安全処理推進者養成講座第1回講習会資料 : 6-19.
3. 松島 肇 (2003) 医療廃棄物対策, 三共株式会社ホームページ : 1-5.
4. 松島 肇 (2003) 診療所などにおける感染性廃棄物処理管理マニュアル, 第1回日本医師会感染性廃棄物安全処理推進者養成講座第2回講習会資料, 47-55.
5. 松島 肇監修, 宮村隆喜, 原田 優 (2004) 日本医師会感染性廃棄物安全処理推進者養成講

座 感染性廃棄物処理業者選択のポイント, 日本医師会総合政策研究機構: 1-62.

6. 松島 肇 (2004) 日本医師会感染性廃棄物安全処理推進者養成講座 オリエンテーション&感染性廃棄物関連用語集, 日本医師会総合政策研究機構: 1-50.
7. 松島 肇 (2004) 日本医師会感染性廃棄物安全処理推進者養成講座 感染性廃棄物の処理処分の体系と方法, 日本医師会総合政策研究機構: 1-55.
8. 松島 肇 (2004) 医療廃棄物の法規制及び諸問題, 第2東京弁護士会「抗がん剤の取扱いから医療廃棄物を問う」シンポジウム記録集: 4-15.

インパクトファクターの小計 [0]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

1. 矢野久子, 白井みどり, 石黒千映子, 森 仁美, 広瀬幸美, 平井栄利子, 松島 肇 (2003) 在宅医療廃棄物の適正処理に関する調査報告, 名古屋市立大学看護学部: 1-8.

インパクトファクターの小計 [0]

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 松島 肇 (2004) 廃棄物処理に関する環境問題とそのあり方, 廃棄物処理施設技術管理者再履修課程テキスト, 財団法人日本環境衛生センター: 51-74.
2. 松島 肇, 宮澤雄一 (2004) 有害廃棄物処理, 廃棄物処理施設技術管理者再履修課程テキスト, 財団法人日本環境衛生センター: 157-176.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

4 特許等の出願状況

	平成15年度
特許取得数（出願中含む）	0件

5 医学研究費取得状況

	平成15年度
(1) 文部科学省科学研究費	2件 (300万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	2件 (110万円)

(1) 文部科学省科学研究費

石津みゑ子（代表者）基盤研究C（2）在宅高齢者の主観的睡眠感と生活リズムに関する研究
170万円（新規）

木山 幹恵（代表者）若手研究（B）AHPを用いた臨床ナースの倫理的意思決定プロセスに関する研究 130万円（新規）

松島 肇（分担者）特定領域研究「環境安全学の創成と教育プログラムの開発」 教育研究
機関における労働安全衛生の管理に関する研究 450万円（新規）代表者
島根大学医学部教授 藤田委由

小林 貴子（分担者）基盤研究（B）（1）看護の教育的機能向上のための「看護実践モデル」の
検証および患者教育の体系化に関する研究 340万円（継続）代表者 日
本赤十字看護大学看護学部教授 河口てる子

6 特定研究などの大型プロジェクトの代表、総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	1件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	0件	1件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	5件
(6) 一般演題発表数	0件	

(2) 国内学会の開催・参加

2) 学会における特別講演・招待講演

松島 肇：医療廃棄物処理の現状と対策，第31回流動化分科会ガス化溶融炉事例シンポジウ
ム，5月，川崎

4) 座長をした学会名

松島 肇 第49回東海公衆衛生学会学術大会

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

松島 肇 医療廃棄物研究会 副会長&理事

松島 肇 日本医用マススペクトル学会 評議員

松島 肇 大学等環境安全協議会 評議員

松島 肇 日本医用マススペクトル学会東海支部 幹事

小林貴子 日本糖尿病教育・看護学会 評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

9 共同研究の実施状況

	平成15年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	3件
(3) 学内共同研究	0件

(2) 国内共同研究

1. 藤田委由（島根大学医学部）他「教育研究機関における労働安全衛生の管理に関する研究」
2. 矢野久子（名古屋市立大学看護学部）他「在宅患者の感染性廃棄物取扱いに関する研究」
3. 河口てる子（日本赤十字看護大学）安酸史子（福岡県立看護大学）大池美也子（九州大学）
他：基盤研究（B）「看護の教育機能向上のための『看護実践モデル』の検証および患者教育の体系化に関する研究」

10 産学共同研究

	平成15年度
産学共同研究	0件

11 受賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 教育研究機関における労働安全衛生の管理に関する研究

本研究は教育研究機関の学生及び教職員の健康と安全の確保、快適な作業環境の形成、健康増進をはかることを目的として、教育研究機関における労働安全衛生の管理状況を調査した。教育研究機関における作業環境管理、作業管理、健康管理の状況と問題点を一部明らかにし、労働安全衛生の効果的な管理方法を検討した。

(松島 肇, 藤田委由, 天野宏紀, 山崎裕康)

2. 在宅患者の感染性廃棄物取扱いに関する研究

在宅医療行為に伴って排出される廃棄物は、廃棄物処理法では一般（生活系）廃棄物であり、医療関係機関等からの感染性廃棄物に該当しない。静岡県，愛知県内等の訪問看護ステーションの在宅患者に感染性を持つ可能性のある廃棄物の取扱いに関するアンケートを実施した。その結果，注射針など鋭利なものなどの取扱いに一部問題があることが明らかになった。また，日常生活における在宅医療の中で，患者等は包括的な支援を求めており，訪問看護師は在宅感染性廃棄物の処理方法を含めたケアを提供していく必要があり，その方法論等について検討した。

(松島 肇, 平井栄利子, 矢野久子, 石黒千映子)

3. 看護の教育機能向上のための「看護実践モデル」の検証および患者教育の体系化に関する研究

前年に引き続き，慢性疾患患者の主体性，自己決定とセルフケア推進のための患者教育方法の開発をめざし，多くの看護師による患者教育場面の事例分析から，効果的な患者教育のための「看護実践モデル」の開発を試みた。本年はモデルを構成する各要素間の関係と教育の可能性について検討した結果，モデルの修正に至り，患者教育のための「看護実践モデルVersion 2」を開発した。今後，さらに改訂モデルの検証をすすめ患者教育の体系化を図っていく。

(小林貴子, 河口てる子, 安酸史子, 大池美也子)

13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

15 新聞，雑誌等による報道